

国内の動き

功労章受章者

吉田信夫先生のご逝去を悼む

本会功労章福岡大学名誉教授吉田信夫氏におかれましては、かねてより病氣加療中のところ、去る2008年3月23日にご逝去されました。73歳のご生涯でした。

吉田信夫先生は、熊本県人吉市のご出身で1960年に九州大学大学院工学研究科土木工学専攻修士課程を修了後、運輸省（現国土交通省）に入省されました。

九州大学では、当時建設が進められていた「やまなみハイウェイ」の建設に伴う火山灰性土壌の地盤調査研究を行われておられます。1964年に運輸省第四港湾建設局建設専門官を退職され、当時創設されたばかりの福岡大学工学部土木工学科の道路・土質工学の講師に招かれました。その後、66年に助教授、76年に教授に就任されました。2004年3月に退職されるまで40年間、福岡大学工学部土木工学科の発展にご尽力されました。研究室からの卒業生は1000名を超え、官公庁や有力企業に優秀な人材を送り出しておられます。

大学に赴任された当初は、軟弱地盤を専門とした地盤改良工法等の研究に携わられました。わが国の港湾開発、空港整備で直面する軟弱地盤の問題をはじめとする土質工学の研究に積極的に取り組み、数多くの論文を発表するとともに、軟弱地盤の改良技術の向上に貢献されました。その中でも最も顕著な研究が、超軟弱地盤の表層安定処理に関する研究であります。1976年の土と基礎6月号に「超軟弱地盤（ヘドロ）の土質改良と載荷試験・解析」を発表され、当時、日本の沿岸域での開発工事が進む中において、改良地盤と未改良地盤の2層系地盤の地盤反力係数を推定する方法を示されています。その後、1978年土木学会年次講演会では「超軟弱地盤の地盤反力係数と改良土の変形係数について」と題して現場のデータを用いた浅層改良地盤における地盤反力係数の式を提案されています。これら研究成果は、軟弱地盤ハンドブックや地盤工学会「地盤調査法」の第5章の4において「浅層改良地盤の載荷試験法」として紹介され、多くの軟弱地盤の浅層改良工事の設計、施工において用いられています。

吉田信夫先生は、軟弱地盤を専門とした地盤工学の研究分野で活躍されていましたが、その後道路工学から交通工学、地域計画学へと専門分野を広げられました。交通工学での特筆される研究では、「時間地図」を用いた多次元尺度構成法による高速交通網の評価法があり、その成果は「時間の経済学」（日本経済新聞社）としてまとめられ、その手法は定評がありました。

吉田信夫先生は、運輸省（現国土交通省）出身でもあることから、国、県、市及び政財界とも太い人脈を持たれており、まさに、産学官の「要」として地域の開発、発展にも多大な貢献をされました。いつも「九州はひとつ」、「現場主義」をモットーに「九州地方交通審議会」をはじめ福岡空港将来構想委員会、福岡都市圏交通対策協議会、北部九州圏都市交通計画協議会、九州交通懇話会、福岡県総合計画審議会、博多港地方港湾審議会など数多くの委員会の委員長などを歴任され、豊富な知識と経験により、産学官をまとめられました。また、九州7県の交通計画の策定を指導し、いわば九州交通・都市問題の生き字引的存在でした。

このような貢献が認められ、96年には加山雄三さんとともに交通文化賞を受賞され、99年地盤工学会功労章、02年港湾特別功労賞を受賞されました。そして、99年には秋の園遊会にもご出席されておられます。

研究室では良く学生たちと酒盛りをされ、いつも宴も終わりなると締め言葉に必ず出る言葉がありました。「心はひとつ、気持ちはひとつ、思いはひとつ、九州もひとつ」。これは、同じ九州人として、行政の区割りを越えた連携意識をぜひ持って欲しいとの思いの表れでもありました。また、酒席では、「乾杯」を30カ国語で披露するなど多芸な一面もあり、多くの方に慕われ、愛される先生でもありました。残された我々は、これらの吉田先生の偉大なご功績を受け継ぎ、さらに発展させていかなければと決意を新たにしているところであります。

本学会関係でも九州支部の評議員を長年務められ、支部活動の方向性など大きな視野でご指導を頂いたばかりでなく、学会・支部の発展に大変な貢献をして頂きました。これまでのご厚誼に対して感謝申し上げ、心から哀悼の意を表するのみであります。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。安らかに眠りください。

（佐藤研一 福岡大学教授）
社団法人 地盤工学会

